

基調講演者のご紹介



南 園 義 — みなみそのよしかず (医学博士)

主なロータリー歴：

- 1978年5月 防府ロータリークラブ入会 (2710地区)
- 1997-98年 RI第2710地区・ガバナー
- 2000-02年 RI国際協議会・研修リーダー (2年間)
- 2000-01年 RI広報タスクホース・コーディネーター
- 2001-03年 ロータリー財団RRFC (3年間)
- 2004-06年 RI理事 (2年間)
- 2004-05年 RI超我の奉仕賞選定委員会・委員
- 2005-06年 RI理事会・プログラム委員会・委員長
- 2007-13年 RI戦略計画委員会・委員 (6年間)
- 2008-09年 RI会長指名委員会・委員
- 2010-11年 RI会長指名委員会・委員
- 2008-11年 RLI東アジア及び日本支部委員長・現在、顧問
- 2009-13年 ロータリー財団・恒久基金・日本支部アドバイザー

財団メジャードナー、マルチプル・ポール・ハリス・フェロー、
ベネファクター、遺贈友の会・会員、米山功労者
(南防府消化器病センター・防府胃腸病院長、理事長、顧問
防府医師会会長、山口県医師会監事などを歴任、現在は防府医師会
顧問、防府市国際交流団体連絡協議会顧問)

第8回全国 RYLA 研究会の位置づけ

第8回全国 RYLA 研究会 大会委員 松宮 剛

皆さんもご承知のように、全国34地区中28地区がRYLAセミナーを開催しています。ですがこの数字を以って、日本ではRYLAを活発に実施していると了解するのは早計に過ぎるでしょう。それは、個々のロータリアンやロータリークラブそして地区のRYLAに対する意識・関心度に、想像以上の落差が現実にはあるからです。従って「如何にしてこの落差を無くしていくか」は、これまでの全国RYLA研究会の重要な関心事でした。ただ、この課題への取り組みに終始していたのでは、RYLAプログラムの持っている良さや特色を活動の中で十分に味わって行くことがいつまでも出来ません。

そこで今研究会では、RYLAプログラムの意義を改めて確認し、RYLAを「ロータリーの新世代プログラムの中で最も対象年齢の幅や実施活動方法が広いプログラム」として、積極的に取り組んで行くための方策を議論することに精力を注ぎたいと考えています。つまり「RYLAを通して新世代奉仕活動の充実を計ろう」という訳です。さらには、「全国RYLAセミナー」を如何に実施してゆか、「国際RYLA」にどのような道筋をつけて行くかも視野に入りたいと思っています。成果はもちろん皆さんの手の内にあります。